

東京ステーションホテル見学会

今、話題のスポット「東京ステーションホテル見学会&ランチ会」を理事が企画、6月13日（木）無事に開催されました。

まずは東京ステーションホテル2階のレストラン「ブラン ルージュ」にてランチです。



料理の美味しさもさることながら、器や盛り付けも美しく会話もはずみます。コースの料理すべてをご紹介することが出来ないのですが、その中でも色鮮やかで目にも涼しげな冷製スープとバランス良い盛り付けのデザートのみご紹介いたします。

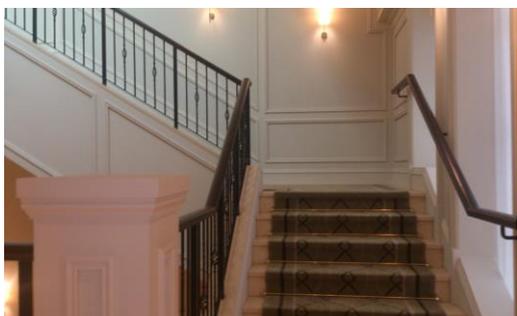


さていよいよガイドさんの案内によるホテル内部の見学です。

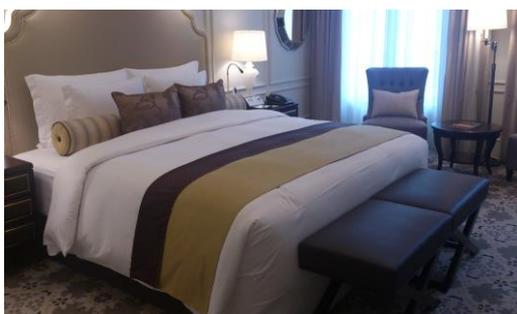
ホテルは4階建てですが、横に長い建物なので廊下も長く、ところどころにこのホテルに縁のある文豪の作品や季節の花がギャラリー風に飾られていました。



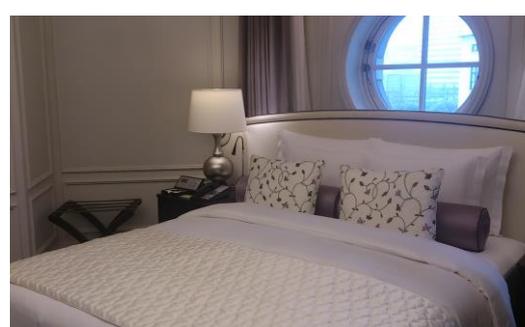
ヨーロッパな階段を上ると宿泊客のための朝食ビュッフェスペースがありました。8メートル以上の天井高で、天窗からの光が降り注ぐ中、食事ができます。なかなか足を踏み入れることが出来ない空間です。



そしてもっと敷居の高い空間、1泊80万円というスイートルームも見学させていただきました。キングサイズのベッドルーム、会議室&応接スペース、大型クローゼット、キッチンやお付きの方の控室までありました。照明器具や家具は特注品だそうです。



次に新婚旅行者向けのメゾネットスイートです。こちらは1泊18万円とのことなので、頑張って一生に一度ぐらい宿泊してみたいお部屋です。



ホテルの修復工事は約5年も要したのですが、デザインはイギリス人女性とのこと。その雰囲気は特にメゾネットスイートに表れていたように思います。ファブリックや照明器具の色やデザインが女性に好まれそうなテイストにまとまっていました。そして雑誌やテレビなどでもよく紹介されているドーム天井です。鷲や剣のレリーフも凝ってますが、有名なのは干支のレリーフですね。しかしドームは八角形のため十二支のうち八つの干支だけがあるそうです。



最後はホテルのロビーにてガイドさんにご挨拶&解散です。大理石の床にはクレマチスの花が施されているのですが、これはクレマチスの花言葉である「旅人の喜び」にちなんでいるそうです。細やかな演出です。



一歩足を踏み入ると東京駅の雑踏が遮断されてしまうヨーロッパクラシックの東京ステーションホテル、再度じっくり訪れてみたい空間でした。

レポート作成 NS